

2020年、世界標準の経営理論【後編】

—— 中小企業にとって大きなチャンス時代が来る ——

大橋 信太郎

オトガル株式会社 代表取締役／中小企業診断士

本誌恒例の特別企画、早稲田大学ビジネススクールの入山章栄教授へのインタビューです。前号に続き、後編をお届けします。今回は、「働き方改革」や、2020年に実用化される「5G」や、それにより広がりを見せる「MaaS」、そして「電子決済」や「スーパーアプリ」などの最新トピックについて、中小企業にどのような影響とチャンスをもたらすのかについて伺います。



入山 章栄 (いりやま あきえ)

早稲田大学大学院経営管理研究科教授。慶応義塾大学卒業、同大学大学院修士課程修了。三菱総合研究所を経て、2008年米ピッツバーグ大学経営大学院博士号取得。専門は経営戦略論および国際経営論。主な著書に『世界の経営学者はいま何を考えているのか』（英治出版）、『ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学』（日経BP社）。2019年12月に新刊『世界標準の経営理論』（ダイヤモンド社）を上梓。

1. 何のために働き方改革を行うのか

—— 中小企業にかかわる最新トピックとして、働き方改革があります。この働き方改革、一般には単なる時短の意味で捉えられていることが多く、残念に思っています。

勤務時間を一律に数字で管理することには疑問があります。もっと働きたい人もいますし、夕方5時には帰りたいという人もいます。企業は、それぞれの人に合わせた多様な働き方を提供することが重要だと思います。

これからの企業は、イノベーションを起こして変化するためにも多様性が必要です。多様な人が来るということは、その働き方も多様になります。多くの大企業では、いまだに勤務実績をエクセルで一様に管理していますが、多様な人がいるのに一様に管理できるでしょうか。

働き方改革のポイントは、「何のためにやるのか」ということにあります。ダイバーシティやSDGsなど、さまざまなバズワードが流行していますが、肝心なことは、「何のためにやるのか」を考えることです。

その問いに対して、明確な答えはありません。しかし、それを考えること自体に意味があります。